

## 介護等体験実施上の注意事項

(静岡県教育委員会)

以下は、これまで（令和元年度まで）の静岡県介護等体験実施連絡協議会において、静岡県内の施設、特別支援学校及び大学等と確認した共通理解事項です。学生に対して確実に指導願います。

### 1 学生への指導について

- ・体験の辞退者が多く、体験先に迷惑をかけている。  
学生に進路選択を明確にさせ『とりあえず小中学校教員を希望』とさせない。
- ・何のために、何を学ぶか等の目的意識を明確にさせる。
- ・体験先の施設・学校の概要や障害の基本的な理解について、事前の学習を確実に行う。
- ・社会人としてのマナー（時間厳守や無断欠席禁止、貴重品管理、入所者のプライバシー等）も併せて指導する。（教員を目指す者としての立ち振る舞い）

### 2 日程調整及び体験先への交通手段について

- ・原則、公共交通機関を利用する。（ない場合は体験先と相談する。）
- ・台風等で体験日を変更する場合は、体験先と連絡を密に取り合い、早めに確認を行う。可能であれば、あらかじめ振替日（予備日）を設定しておく。また、大学は学生とのやり取りだけでなく、必要に応じて体験先と連絡を取り、その内容を共通理解する。

### 3 健康診断及び予防接種について

- ・健康診断及び予防接種の要否は、施設により異なる。入浴、食事の介護がなくコミュニケーションや職員の補助程度なら健康診断は要らないが、各施設で介護内容の要求が異なるので、事前確認をした上で判断する。（施設は、入所者の命を預かっている立場で責任がある。）
- ・大学側も学生の健康状態を可能な限り把握すること。春に大学で行われる健康診断を利用する場合も、必ず診断結果の確認をする。

### 4 保険関係

- ・介護等体験に係る保険の加入は確実に行う。

### 5 体験修了と認められないケースとその基準

- ・学生は事前指導を受け、体験の目的及び趣旨について十分理解した上で体験に臨むこと。
  - ・体験先で問題のある学生には、「実施取扱概要書第12条第1項第2号」の規定により体験の取消を行うことができる。服装や態度を含め、その資質が疑われるような言動があり、その状況に改善が見込めない場合には、該当大学等に報告の上、体験を取り消す。
- ※体験中に、指導すべき内容の言動があった場合、体験先は速やかに大学に連絡をし、大学は必要な指導を行う。

### 6 自己評価票の提出方法

- ・自己評価は、原則、大学の事後指導として実施し、体験先ごとにとりまとめて提出する。写しを大学に保管する。